

授業科目：母性看護学実習（妊婦の看護）

科目目標：妊婦の健康状態を判断し、必要な支援の実際が理解できる。

行 動 目 標	内 容	方 法
1 母体の変化や胎児の発育・健康状態を理解することができる。	1) 妊婦健康診査の実際 (1) 外来カルテ、母子健康手帳からの情報収集 (2) 妊婦の観察と諸計測の準備・介助 ①尿検査・血圧・体重 ②子宮底長の測定 ③腹囲測定 ④胎児心音測定 ⑤レオポルド触診法 ⑥内診 ⑦超音波検査 ⑧NST	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦健康診査の実際を、見学一部介助を通して学ぶ。 ・指導者に受持ち妊婦を一人選択してもらい、診察開始から終了まで一緒に行動する。 ・受持ち妊婦の情報をカルテ・母子健康手帳・コミュニケーションから得てアセスメントと必要な支援を考え、記述する。
2 妊婦の保健指導の実際を理解することができる。	1) 個別指導 (1) 妊婦健康診査の必要性と諸届けの内容 (2) 生活指導、栄養指導 (3) マイナートラブルとその内容 (4) 合併症予防 (5) 分娩に向けての準備 2) 集団指導	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導は見学をする。集団指導（母親学級等）は機会に応じて見学する。 ・外来オリエンテーション時又は、診察開始前に学生同士で内診台への誘導を行い、実際に乗って、診察を受ける妊婦の心理や誘導の方法を考え実際場面に活かす。
3 妊婦の身体的・社会的・心理的側面からアセスメントし、必要な支援が理解できる。	1) 身体的側面のアセスメント (1) 妊娠週数 (2) 検査・治療 (3) 既往歴、既往妊娠・分娩歴 (4) マイナートラブルの状態 (5) 胎児の発育状態・健康状態 2) 社会的側面のアセスメント (1) 発達課題 (2) 社会的・経済的背景 (3) 理解力 (4) 基本的生活習慣 (5) 職業の調整 (6) 家族のサポート 3) 心理的側面のアセスメント (1) 妊娠・分娩・育児に対する考え (2) 夫・家族の妊娠の受容	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦の心理的特徴を理解するために診察時の医師と妊婦との会話や質問応答などに注意を向けて実習する。 ・妊婦に対する支援制度については、具体的にどのような内容か、事例と結びついた実習をする。 ・学内カンファレンス等で、妊婦に起こりうる医療事故や妊婦の安全を守るための看護について検討する。

授業科目：母性看護学実習（産婦の看護）

科目目標：産婦の健康状態を判断し、必要な支援の実際が理解できる。

行 動 目 標	内 容	方 法
<p>1 入院時の産婦の観察と支援ができる。</p>	<p>1) 報収集 (1) 入院目的・理由 (2) 今回及び過去の妊娠・分娩に関する情報 (3) 社会的背景</p> <p>2) 観察と計測及び処置 (1) 子宮底・腹囲・体重・バイタルサイン測定・尿検査 (2) レオポルド触診法 (3) 陣痛と胎児心音の測定 (4) 分泌物の観察 (5) 全身状態と心理</p> <p>3) 産婦と家族への指導 (1) 分娩経過の説明 (2) 呼吸法やリラクゼーションの方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・受持ち産婦で支援を行う。 ・分娩経過記録から経過を把握し、支援を行う。 ・産婦がいないときは、分娩のシミュレーションを行い学ぶ。 ・分娩監視装置の装着 ・CTGの判読 ・呼吸法、補助動作・産痛緩和法 ・分娩台の操作及び努責の体位 ・胎盤計測 など ・分娩進行状態から産婦の心理を考え、時期に応じたコミュニケーションを図る。
<p>2 分娩第1期の産婦の観察と支援ができる。</p>	<p>1) 分娩第1期の観察 (1) 陣痛と胎児の状態観察 (手による触知・分娩監視装置) (2) 分泌物・破水の有無の観察 (3) 内診結果から分娩進行状態の判断 (4) 全身状態と心理状態</p> <p>2) 産婦・家族への支援 (1) 産痛の緩和 ① マッサージ法・圧迫法 ② 温罨法 ③ 器具・物品による方法 (2) 呼吸法とリラクゼーション (3) 食事・排泄・清潔 (4) 不安の軽減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・陣痛の測定・胎児心音の聴取は、分娩監視装置での読み取りだけでなく、触診・ドップラーを用いて実施してみる。
<p>3 分娩第2期の産婦の観察と支援ができる。</p>	<p>1) 分娩第2期の観察 (1) 陣痛と胎児状態の観察 (2) 分娩進行状態の観察</p> <p>2) 産婦と夫への支援 (1) 分娩時の体位 (2) 陣痛間歇時のリラクゼーション (3) 呼吸法 (4) 心理的援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・帝王切開を見学する場合は、事前学習をし、目的を明確にしておく。

行 動 目 標	内 容	方 法
<p>4 分娩第3・4期の観察と支援ができる。</p>	<p>1) 胎盤娩出の観察と計測</p> <p>2) 分娩第3・4期の観察 (1) 出血及び子宮収縮状態 (2) 会陰部・縫合部・及び肛門 (3) バイタルサインと一般状態 (4) 心理状態</p> <p>3) 分娩第3・4期の援助 (1) 子宮収縮促進 (2) ねぎらいの声かけ (3) 早期母子接触 (4) 家族の対面</p> <p>4) 分娩の振り返り</p>	
<p>5 受持ち産婦の分娩経過及び産婦の健康生活についてアセスメントできる。</p>	<p>1) 母子関係・親子関係</p> <p>2) 分娩経過と新生児の状態に関するアセスメント</p>	<p>・学内カンファレンス等で、産婦に起こりうる医療事故や産婦の安全を守るための看護について検討する。</p>

授業科目：母性看護学実習（褥婦の看護）

科目目標：褥婦の健康状態を診断し、必要な支援を実施できる。

行 動 目 標	内 容	方 法
1 受持ち褥婦の情報収集、アセスメント、健康状態の診断ができる。	1) 妊娠経過 2) 分娩経過 3) 産褥日数 4) 母体の状態 5) 基本的生活行動 6) 精神心理的生活行動 7) 社会生活行動 8) 出産育児行動	<ul style="list-style-type: none"> ・褥婦を1名受持ち、看護過程を展開する。 ・コミュニケーションから診断指標に関連した情報収集を行う。
2 計画に基づき、産褥期の経過及び健康生活に対して、受持ち褥婦に必要な個人指導を実施できる。	1) 子宮収縮促進の支援 (1) 輪状マッサージ (2) 授乳や排泄との関係 (3) 子宮収縮剤との関係 (4) 産褥体操 2) 基本的生活行動の支援 (1) 清潔（身体、外陰部） (2) 食事 (3) 活動と休息 (4) 早期離床 (5) 排泄 3) 母乳栄養確立への支援 (1) 授乳指導と授乳介助 (2) 乳房・乳頭マッサージの指導 (3) 搾乳と搾乳方法の指導 (4) 乳房・乳頭トラブルの予防とその処置及び指導 (5) 母乳分泌を促進する食事・休息の指導 4) 母子関係確立への支援 (1) 分娩後の早期接触（父親含む） (2) 育児技術の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・診断名は産褥期診断に基づき決定し、支援計画を立てて、必要な支援を記述する。 ・ケースカンファレンス実施時、助言を基に支援の方向性を決定する。 ・個人指導は、前日までに指導計画を教員及び指導者へ提出し、助言を受け、指導者または教員の同席のもとに実施する。 ・学内カンファレンス等で、褥婦の個別性を踏まえた指導計画・支援計画の修正、実施した支援の根拠の確認などを行う。 ・産褥経過や褥婦の心理状態に応じたコミュニケーションを図る。 ・受持ち褥婦の新生児の情報収集も行う。
3 集団指導の実際を理解できる。	1) 退院までに行われる集団指導 初回授乳・育児指導、沐浴指導 退院後の保健指導、家族計画指導、産褥体操指導	
4 母児の生活を継続して支援するために必要な地域・関連機関との連携の実際が述べられる。	1) 看護の継続の実際 2) 関連機関との連携 (1) 出生届 (2) 母子健康手帳の活用（退院時の記入内容、褥婦への説明） (3) 保健所等の関連機関への連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学内カンファレンス等で、褥婦に起こりうる医療事故や褥婦の安全を守るための看護について検討する。

授業科目：母性看護学実習（新生児の看護）

科目目標：新生児の健康状態を判断し、胎外生活に適応するための看護が実施できる。

行 動 目 標	内 容	方 法
<p>1 児の健康状態に影響を及ぼす因子について情報収集できる。</p>	<p>1) 胎児期の健康状態 2) 在胎週数 3) 分娩所要時間 4) 分娩様式 5) 感染徴候（破水・母体発熱） 6) 胎児機能不全の有無 7) 分娩外傷の有無</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・受持ち新生児で援助を実施する。（受持ち新生児以外で見学又は実施する場合もある。）
<p>2 出生直後の新生児の観察と援助の実際が述べられる。</p>	<p>1) 出生直後の新生児の観察 (1) アプガースコアの採点 (2) 全身の観察と計測</p> <p>2) 出生直後の新生児の援助 (1) 気道の確保 (2) 体温管理と臍処置 (3) 点眼 (4) 母児標識装着 (5) 早期接触</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出生直後の新生児の看護は、分娩室または新生児室実習で見学する。
<p>3 新生児の健康状態を判断し、必要な援助が実施できる。</p>	<p>1) 新生児の観察 (1) バイタルサイン (2) 全身観察と生理的变化 (3) 哺乳状態</p> <p>2) 新生児への援助 (1) 環境の調整 (2) 排泄（おむつ交換） (3) 清潔（沐浴、清拭、寝衣交換） (4) 栄養（量、抱き方、排気等） (5) 安全への配慮 （誘拐防止、熱傷防止、転落防止、取り違い防止等）</p> <p>3) 感染予防 (1) 手洗い (2) 面会の制限</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・沐浴を実施する場合は、事前にバイタルサインのチェックを行い、指導者または教員の指導の元を実施する。 ・新生児の診察・検査・与薬はスケジュールを確認し、見学及び一部介助する。 ・新生児の状況に応じた声掛けや対応を工夫する。 ・受持ち新生児の母親（褥婦）の情報収集も行う。
<p>4 新生児の診察・検査・与薬の必要性と介助方法が理解できる。</p>	<p>1) 新生児の診察 (1) 初回診察 (2) 日々の診察 (3) 退院診察</p> <p>2) 採血</p> <p>3) 黄疸計による測定</p> <p>4) ビタミンKの与薬</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学内カンファレンス等で、新生児に起こりうる医療事故や新生児の安全を守るための看護について検討する。